

キヤッチル ボール



窓に月が浮かんでいる。電気の消された暗い部屋で、ぼくはギュッとまくらをだいた。今夜は眠れそうにない。

「ねえ、父さん」

「ん〜？」

「明日が楽しみだね」

「そうか？」

「サイコーのチーズケーキ。絶対、人気メニューになるよ」

ぼくのとおりで父さんは、ぼんやり天井をながめている。

「ねえ、お父さん」

「ん〜？」

「ぼく、本当は知ってるんだ」

「なにを？」

「あのチーズケーキが完成するまで、父さんがどんなに苦

劳したか」

父さんはフツと息をはいた。

「ねえ、父さん」

「ん〜？」

「あの味ってさ」

ぼくが最後まで言う前に、

「今日はおせいから、もう寝なさい」

父さんがかけ布団をかぶせてくる。

「ちえ〜」

「腹出して、寝るんじゃないぞ」

「そんなの言われなくてもわかってるよ」

父さん特製の超スペシャルチーズケーキ。明日からきつ

と、店の看板メニューになる。